



関口 和夫会長

第2611回 例会

2015. 10. 15

会長あいさつ

週報 No.2056

発行 2015年 10月 22日

会長 関口 和夫
副会長 藤村 作
副幹事 久保田 勲
副幹事 樋口 雅之
編集責任者・
クラブ広報委員長 長沼 大策

ビジターゲスト
RI.D2770
ガバナー 井原 實様
RI.D2770 第5グループ
ガバナー補佐 大國 博様
RI.D2770
地区副幹事 鷺見 照一様
米山記念奨学生
周 彬 (しゅう びん) 君

10月29日 新会員卓話
春日 孝文会員
11月5日 卓話
遠山 正博様
11月12日 地区大会に振替
(日時・例会会場変更)
11月19日 会員卓話
斎藤 修弘会員
11月25日 上尾西R・上尾北R
合同例会(日程変更)

皆さん、こんにちは。今日は、国際ロータリー第2770地区ガバナー井原實様、第5グループガバナー補佐大國博様、地区副幹事鷺見照一様ご出席頂きありがとうございます。例会前には、井原ガバナー、大國ガバナー補佐に同席を頂き、会長幹事懇談会という時間頂きました。たくさんのご指導を頂き、クラブの活性化に活かしたいと思います。

新入会員の春日さん、入会おめでとうございます。後程、入会式で井原ガバナーにパッチの授与をお願いしたいと思います。

また、このあと井原ガバナーより貴重な卓話を頂きます。例会終了後は、移動して頂きクラブ協議会で各委員長さんより委員会方針及び計画、実施方法を発表して頂き、ガバナーより適切なご指導を賜りたいと思いますのでよろしくお願い致します。

さて、10月24日(ニューヨークでは10月23日)は世界ポリオデーです。K.R.ラビンドランRI会長は、この日は皆さん全員が、何らかの形で撲滅活動にご協力くださることを望んでいます。ポリオのない世界を目指すロータリーの活動を大々的に紹介する為に、ニューヨークで世界ポリオデー特別ライブ中継イベントが行われます。ユニセフと共催で行われるこのイベントには、世界ポリオ撲滅推進活動のパートナー団体、政府高官、世界保健における非政府組織のリーダーが列席する他、3万人を超えるポリオ撲滅活動のサポーターが参加する予定です。7月にはナイジェリアで歴史上初めて野生型ポリオウィルスの無発症期間が1年を経過し、8月にはアフリカ全体で無発症期間が1年を超えることが出来ました。ポリオ撲滅活動に大きな前進がありました。今後もアフリカでの進展を遂げると同時に、アフガニスタンとパキスタンにより多くの支援を注いでいかなければならないと述べています。世界ポリオデーにライブ中継イベントは日本時間10月24日の朝7時30分より開始されます。ポリオ撲滅支援サイト(www.endpolionow.org)で見ることが出来ます。ぜひ皆さんもご参加いただき、メッセージを広めるご協力をお願いします。30年前、ロータリーは世界からポリオを撲滅すると世界に約束しました。その約束が今、現実になろうとしています。すべての子どもをポリオの脅威から守るために、この機会に皆さんからのさらなるご協力をお願いします。

また10月25日には浦和駅東口でロータリーフェスタが行われます。是非ご参加下さい。以上をもちまして、会長挨拶とさせていただきます。本日も、よろしくお願い致します。

Rotary AGEO ROTARY CLUB

幹事報告

藤村 作幹事

◆地区から地区大会ポリオ撲滅チャリティゴルフ大会に参加いただくお礼がきています。地区から344名出席、当クラブとしては大塚バスターガバナーと齋藤博重会員が参加になります。よろしくお願いたします。



◆2015-16年度、米山のカウンセラー研修会が11月2日、浦和のコミュニティセンターで18:20から行われます。細野会員、よろしくお願いたします。

◆米山の寄付金が昨年より少し減っているということですが、直近10年間では3番目に高い数字だそうです。皆さんご支援ありがとうございます。当クラブとしても米山の寄付金目標額は達成ということになっています。

新会員 入会式



新会員あいさつ

春日 孝文会員

私は42歳、出身はさいたま市北区です。いちばん近い駅は東宮原駅です。現在は現在は新宿にあるのですが、以前は大宮の産業道路沿いにありました。福島県から静岡県まで112店舗を展開している調剤薬局の会社です。異業種の方々とお話しをする機会がなかったので、ぜひとも皆様方と仲良くさせていただきたいと強く思っています。よろしくお願いたします。

春日会員、入会おめでとうございました!

ビジターゲストあいさつ

米山記念奨学生 周 彬 君

11月14・15日の地区大会で、米山奨学生がダンスや歌を披露します。時間がありませんがぜひご覧ください。できればと思います。



例会主題 卓話

RIテーマと地区運営

国際ロータリー第2770地区ガバナー 井原 實様

最初に自己紹介から申し上げます。私は1950年(昭和25年3月)に与野で生まれました。私の研修リーダーになっていただいて気付いたのが大塚バスターガバナーと同学年ということです。昭和25年というのは、昭和20年に日本は敗戦し大陸から大勢の方が帰ってきて一気に人口が増え、平和になって昭和22年、24年はベビーブームになりました。小学校の1クラスは50人ほどで1学年が6~8クラスありました。なので教室が足りなくなり、午前・午後2部授業制でした。私たちはこの授業制で面白おかしく過ごしましたが、この間フィリピンに行ってみたら、フィリピンの小学校は午前・午後・夕方方の3部制なんですね。それくらい人口が多いし、まだまだ学校が用意できないのだなあと感じました。大学受験の頃は昭和22年生まれの方々によって安保闘争が行われていました。社会にでれば昭和22年生まれの方が役職につき、昭和24年生まれは椅子がない世代ということで過ごしてきました。

1978年(昭和53年)に慶応義塾大学を卒業して東芝に入社しました。私が入社した頃はアメリカと格差があった時代です。車ではアメリカのBIG3から日本の車

Rotary AGEO ROTARY CLUB



を守ろうと通産省が関税貿易をしていました。その次に通産省はコンピュータ産業を守ろうとしてくれました。当時日本では5社が大型計算機を作っていましたが、IBMにはとても勝てないということで2社にまとめてしまおうとなり、日立と富士通が1つの計算機、日電と東芝と沖電気が1つの計算機のグループに分かれました。東芝はこの政策を不服として1978年に大型計算機から撤退します。ですけれども私はこの政策はいい政策だと思っております。他国と比べ、日本は守られたおかげで0から計算機を作ることができたからです。私はミニコンピュータの部署に配属になりました。ミニといっても当時1台1億円はしていました。システムになると8億や10億円になり、原子力発電の炉心の制御計算、送配電の制御などです。そういうものではなかなか人が使えないということで、手の届く計算機の開発を願っていました。1985年にはようやく1,000万円の計算機をだせましたが、海のむこうでは1人1人が使えるコンピュータを作ろうとしていました。私たちは1989年に膝のうえにのるワークステーションというコンピュータをつくり、その次に東芝は90年代にダイナブックと言うブック型パソコンを作りました。2000年から2010年はiPadに代表されるPadになりました。2010年以降は皆さんのポケットに入っているスマートフォンになりました。私が昔1台1億円まで売っていたコンピュータと、今のスマホを比べると、スマホの方が100倍は速いし、100倍のメモリを積んでいることになりました。そんな夢のようなスーパーコンピュータが皆さんのポケットの中にある、ということになります。

東芝での仕事を楽しんでいましたが、父親が起こした与野フードというスーパーマーケットに帰ってこいと云われるようになり帰ってきました。与野フードで働いていたらロータリークラブから誘われ、さいたま新都心RC初代会長から声をかけられて入会しました。38名ほどの人数のクラブでしたが、入会したら、8年後に会

長になり、1年は休んでいいけどその後は地区で3年間ご奉公をしてこいと云われました。地区にでると携帯電話に頻りに連絡がやかかってくるようになりました。3年たつて自分のクラブに戻ろうと思っていたら携帯電話がまた鳴り、渡邊バスターガバナー(エレクトの時代)から財団の部門委員長をやってほしいという依頼でした。渡邊さんとは同期の会長をやったご縁があったので引き受けさせていただきました。その次にガバナーという話が出て、さいたま新都心RCの初代会長が承継クラブからも推薦されて急遽ガバナー補佐になり、ゲッツをうけ歓迎晩餐会でエレクトのラビンドランさんのテーマ発表とスピーチを聞きました。

KR「ラビ」ラビンドランRI(現)会長のスピーチ(1) ●私たちは往々にして、あまり意味のないことに捕われて毎日過ごし、物を手に入れるために身をやつめます。しかし私たちがこの世を去った後、人が思い起こすのは、私たちが生前乗っていた車でも、着ていた服でも、肩書でも、役職でもありません。より大きな資産や、より高い地位を得ようとした努力のこともありません。●結局のところ、私たちが人生の価値は、どれほど得たかではなく、どれほど与えたかによって判断されるのです。スピーチ(2) ●2015-16年度の私たちのテーマは「世界へのプレゼントになろう」です。●地位や身の上にかかわらず、才能、知識、能力、努力、そして献身と熱意まで、誰でも与える事のできる何かをもっているはずなんです。私たちはロータリーを通じて、これらを世界にプレゼントすることで、誰かの人生に、そして世界に、真の变化を起こすことができるはずなんです。●「人は手を閉じて生まれ、手を開いて死んでいく」。また「己の才能は、天から授けられたもの」と言われます。ですから私たちは、その授けられたものを返すのです。非常に哲学のようなストーリーを展開しました。

ラビンドランRI会長が今年度強調したことは2つあります。コンピュータがだいぶ進歩しそれを使って事務



を効率化してほしい、だからMyRotaryに入ってくださいというものが1つめです。2つめはロータリーのブランドをもっと認知させてくださいということです。世界中で、われわれの歯車のマークの認知度は5%+αほどです。ブランドの認知度向上が切実な願いで、それで新ロゴを作りました。

そういうことを受けて自分の地区テーマを何にしようかと考え地区活動方針を「ロータリーは奉仕を通じて、人づくり、自分づくり」としました。私は、ロータリーは総じて「人づくり」をしている団体だと思っています。前年度、濱野ガバナーの「ロータリーは人づくり、そして奉仕」を継ぎ、もう1年「人づくり」をテーマにしていかなと思ひ、奉仕活動を通じて人がつくれる自分がつくれるんだ、そのようにして成長したロータリアン1人1人が明日のより良い世界をつくる、世界へのプレゼントになってほしい、というストーリーで活動方針を作りました。

また地区運営方針は「ロータリーを学ぼう、そして楽しもう」としました。RIがだいぶ変わってきていますので、新しいロータリーを学んでほしい、でも基本は忘れないでほしい、それを理解しながら奉仕を通じてロータリーを楽しんでほしい、という意味です。

そして私は公式訪問をしながら、ガバナーとして効果的なクラブになってほしいと願っています。1つめは会

員維持拡大、2つめは奉仕プロジェクトをして成果を出していること、3つめは資金面およびプログラムの参加を通じてロータリー財団を支持してほしい、4つめはクラブレベルを超えてロータリーの奉仕ができるリーダーを育成してほしいということです。

そういうことで7月1日に埼玉新聞で、公共イメージの認知を向上させるため一般の人にロータリーを覚えていただくために1ページの掲載をしました。ここでロータリークラブは何をしているかを伝えました。また10月25日ロータリーフェスタや、11月の地区大会で認知症について地域として知識を上げてほしいので、ロータリアンではない方も参加していただいて認知症フォーラムをやりたいと掲載しました。ロータリーは人をつくるという意味で青少年交換留学のホストファミリーを増やしたいと伝えました。掲載費はかかりましたが、地区大会で有名人を呼ぶことをやめ、新聞掲載費に充てました。このようなロータリーフェスタ、地区大会にぜひ参加していただきたいと思ひます。ご静聴いただきありがとうございます。

この後、クラブ協議会IIを行いました。井原ガバナー、公式訪問も卓話ありがとうございました!



出席率	出席 会員数 37	出席数 30	前々回確定	欠席数 3
	欠席 欠席数 7	(%) 81.08	修正(%) 91.89	(M・U) 11

例会日 毎週木曜日 12:30~13:30 事務所 〒362-0035 埼玉県上尾市仲町1-8-31 新和エクセルビル303

例会場 東武バケットホール4F(ボリアス) TEL 048-775-7788 / FAX 048-776-9799

